

シート無事出産！

ドラマのようなドタバタ劇

1月19日(月)、シートが無事出産しました。帝王切開の末、2700gの女の子でした。

この日は丁度KCがバクタプールの実家にちょっと帰ると言って早朝から出かけていました。浩司さんは9時前に出勤し、私もポルトガル刺繍の習い事に10時半頃出かけました。出かける少し前にKCからシートの様子を確認する電話があり、私は「大丈夫。」と答えて電話を切りました。ところが、この頃からシートが腹痛を訴え、心配ながらも取りあえず出かけたのでした。12時半頃帰宅すると、これはどうも陣痛が始まるなんて、まるでドラマのようなタイミングでした。

さて、これからが大変。KCの連絡先はわからない。バラジューのシートの実家は電話がない。取りあえず浩司さんに電話すると、事務所の門脇さんの家の門番がシートの弟なので、浩司さんが門番に連絡して、バラジューに知らせるように伝えてくれました。午後2時半頃、病院のクリシュナから電話があり、緊急手術を行うとのことで、肝心のKCがいないのに本当に大丈夫かと不安になりました。でも、手術の末シートは3時半には無事出産。KCは5時に帰宅し、急いで病院に走らせました。バラジューのお母さんは7時頃に病院に着いたそうです。

1月30日(金)、シートと赤ちゃんはタバタリ病院を退院し、我が家に帰ってきました。

ネパールでは、生後2週間でも屋外に出して裸にして、体に油を塗って沐浴をさせます。眼の周りにアイシャドーのように炭を黒く塗ります。また、女の子の場合は生後5ヶ月でご飯を食べさせる儀式(男の子の場合は6ヶ月)が済む迄は名前を付けないそうで、今は赤ちゃんのことを「バプー」とか「ナニー」(いずれも赤ちゃんという意味)で呼んでいます。出産後2ヶ月は母子ともに実家で過ごすそうで、間もなくシート母子もバラジューの実家に里帰りするそうです。

KC夫妻は最初の2人の男の子を6歳頃迄に亡くし、一昨年は第3子を流産し、今回が4度目の正直でした。それだけに無事生まれてきてシートの喜びはひとしおです。生活環境が決して良くないネパールだけに、衛生状態には十分注意して、大切に育ててほしいと切に願っています。(美澄)

みきおには歯が生えました！

樹生君の近況報告(その2)

1月10日(土)、コックのナヌさんがお休みなのでイタリアンレストランに夕飯を食べに行きました。樹生は外食に連れて行っても比較的大人しいのであまり苦勞はしませんが、それでも時々騒いだので、思わず指を樹生の口の中に入れて噛み噛みさせました。すると、いつもと違って何かが当たります。口を開けてみると白い歯がちらっと頭を出しているではありませんか！思えば5ヶ月を過ぎた頃から歯固めのおもちゃを好んで噛んでいたのも、もうすぐ歯が出るのではないかなと言われ続け、私はズーッと上顎ばかりチェックしていたのです。でも、実際は下顎からだったのですね、知りませんでした。

その後1月20日(火)2本目の歯も生え、今まで赤ちゃん煎餅を食べるとき、ただ歯ぐきで溶かして食べていたのが歯に当たり、「サクッ」と音がするようになまりました。食欲も益々盛んで1日2回ご飯を食べ元気に育っています。しかし少し発育が良すぎて太めなためか、お座りはかなり早くから出来ていたのに未だ寝返りが出来ません。少し遅いかなとも思いますが、寝返りが出来ない方が、目が離せるのでこのままでいて欲しいような欲しくないような複雑な気分です。(美澄)

役に立たない(?) 習い事

私の任期も今年夏頃までかなということ、残り時間の有効活用を考えるようになった。1つのアイデアは、国際手話(日本語手話とは全然別)を習うことだった。しかし、実際調べてみると、国際手話を教えられる教師がネパールにいないことがわかった。そこで方針転換、ネパール語の手話を習うことにした。これまでに習ったネパール語の復習にもなるし、ネパールの聾啞者と意思の疎通を図る中で、今まで見えなかったこの国の問題点が見えてくるかもしれないとも思った。

ネパール聾啞者連盟(NADH)の私の知人レヌー・ロハニさんと彼女の弟のモハンさんに個人教授をお願いしたが、謝金は彼女達の懐に全額入るのではなく、一部分は「山田基金」として積み立ててもらい、今後NADHが地方で実施する手話クラスの教師の給与(月1500ルピー程度)に使ってもらうことにした。個人でのNGO支援はたかが知れているが、ただ資金協力するだけではなく、自分にもメリットがあるという点では良い方法だと思う。自分達が手話を学ぶことを通じて、地方で手話を学ぶ機会を得た子供達とも会話ができるようになるので一石二鳥である。

ネパール語の手話なんか習って日本に帰って役に立つのかと聞かれたら、全然役に立たないと思う。せいぜいNADHから研修員が日本に来た時に使える程度だろう。でも、今後の自分のあり方を考える上で何かのきっかけにはなるかもしれない。現在のODAの仕組み上JICAがNADHのようなローカルNGOに直接資金援助することはできないし、かといって日本で他のスポンサーを紹介するにしても自分でNADHをよく知らないでは薦めるわけにもいかない。とにかく自分でやれるところから始めて、できる限りよく見て学んでみようと思っている。

所員には内緒で美澄と2人で始めた習い事、当面の目標は、離任の挨拶をネパール語プラス手話でやることだ。(浩司)

1月14日、私は新たに始まった開発調査「タライ平野河川治水計画」の調査対象河川の状況把握を上空から行うため、コンサルタント2名、ソウラブ所員とともにヘリに乗り込んだ。冬のカトマンズは朝の霧が深く、離陸したのは午前10時過ぎ、飛行時間8時間を想定していたため、この時点でタライ平野のいずれかの町で1泊することを覚悟した。

霧のカトマンズ盆地からバグマティ川を下流に向かって飛んだが、途中から霧がさらに濃くなり、山間部の低空飛行は危険と判断したパイロットは機体を上昇させた。上空から見たらタライ平野は濃い雲に覆われ、地上の景色は何も見えない。GPS(全方向方位システム)を最寄りの空港に合わせて雲に向かって再突入し、最初の河川を捉えたが、タライの霧はカトマンズ以上で、雲に覆われて気温も上がらず、カトマンズ以上に肌寒さを感じた。

調査はカトマンズの南方のロカンディ水系から始まり、西に移動してナラヤニ水系も確認したが、天候が良かったのはチトワンまでで、さらに西のプトワル、バイラワに向かう頃には霧もさらに濃くなり、これ以上の調査は困難と判断した私達はバイラワ空港に着陸することになった。時刻は午後3時過ぎ。宿泊の準備はしていなかったが、翌日が快晴で調査継続できることを祈り、ここで1泊することに。仕方なくホテルで毛布を2枚借り、これにくるまって寒さを凌いだ。

しかし、翌日のバイラワは正午過ぎても霧が晴れず、空港は閉鎖。西のネパールガンジ方面はさらに天候が悪いと知り、私達は、とにかくカトマンズに帰ることを最優先とし、2時過ぎに離陸許可を取り付け、なんとか帰京したのだった。

この冬はネパールでも異常気象、12月にはカトマンズでのべ3日間雨が降り、作付済みの作物が大損害を受けた。さらに、タライ地方では、この12月の雨以来曇りの日が続く、霧もなかなか晴れずに気温が上がらないとのこと。タライはネパールの穀倉地帯であり、農作物への損害もひどかった。ルピー切り下げもあって物価は上がり気味である。(浩司)

バイラワのナイトシネマ

地方の映画館大繁盛！！

バイラワ空港からリキシャー(人力車)に乗って町に入ると、至る所に映画の貼り紙があった。上映中の映画は"ISHQ"、一昨年"Rangeela"で大ブレイクしたアンジット・カーンに、ヒンディー映画女優で現在最も人気のある美貌の2人、ジュヒ・チャウラとカジョルが絡むという超豪華キャスト♥前々から観たいと思っていた映画だ。町を歩いていて映画館を見つけた。今晩は上映があるかと尋ねると、午後6時からとのこと。さっそくバルコニー指定席を16ルピーで購入した。

バイラワの映画館は、町の規模からみてかなり大きめだったが、それでも開演時間になると人で溢れ返り、バルコニー席も満席状態。3時間以上もかかる上映時間では夕食時を逃すというので、開演前に劇場周辺の定食屋や屋台で軽く腹ごしらえする人が多かった。また、家族連れが非常に多く、中には悪天候による空港閉鎖で足止めを食った外国人観光客の姿も。

ストーリー自体は、笑いあり、友情あり、恋愛あり、陰謀あり、裏切りあり、格闘あり、お決まりの歌と踊りのシーンありと、殆どなんでもありの世界。以前紹介したネパール映画よりも映像が格段にきれいで、ヒンディー語がわからなくとも十分に楽しむことができた。バイラワ周辺の住民はインド系が多いため、ヒンディー語のジョークでも大爆笑が起きる。

インドには映画しか庶民の娯楽がない。だから膨大な数の映画が毎年制作されるし、1本当たりの上映時間も長い。ついでに言うと、1人の俳優が年間に出演する映画の本数がそれこそ10本以上にもなり、俳優と女優の組合せが同じになってしまう映画も当然出て来る。いちいち登場人物の名前を考えるのが面倒なのか、俳優の本名をそのまま使っていたりもする。カジョルは「カジョル」、でもアンジット・カーンが「ラジャ」と呼ばれていたのは、彼の代表作の影響だろう。

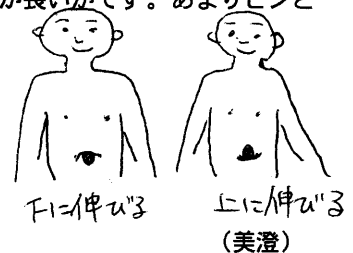
地方出張の暇つぶし、1月はこの他に何とベシサハル出張時にも"JEET"というヒンディー映画を見てしまった。(浩司)

次は男の子？女の子？

ネパール式性別判断

ネパール人が言うことで不思議に思うことは多々ありますが、これもその1つ。生まれた子供のおへその形で次に生まれてくる子供の性別が判るといいます。まず見るポイントは、おへその下の方が長いか上の方が長いことです。あまりピンと来ないかも知れませんが、丸いおへそでもよくよく見ると上と下のどちらかが伸びています。

上の方に伸びていれば男の子、下の方に伸びていれば女の子が次に生まれてくると言われています。因みに私のおへそは下の方が伸びており、妹がいます。浩司さんも同様に下の方が伸びていて、亡くなってしまいましたが妹がいました。他の人も見てもらいましたが、たいがい当たっていました。因みに気になる樹生の次に生まれてくる子供の性別ですが、おへそが下に伸びているから「女の子」が生まれるとのことでした。次は女の子が欲しいと思っていたので、とても嬉しいです。果たして本当に女の子が生まれてくるのでしょうか？斯うご期待。



編集後記

◆ナヌさんが休日の土曜日は、家族サービスも兼ねて郊外にドライブに出かけます。先日、お馴染みのダクシンカリ寺院に出かけた際、樹生を乗せたベビーキャリアを背負って参道を歩いていて、露店のネパール人が口々に「カストラムロバッチャ！（なんて立派な赤ちゃんだこと！）」と言っているのを耳にしました。樹生は7ヶ月にして9.5kg、ヘリでテライに行った時に見かけた赤ちゃんが1歳半で樹生より小さかっただけに、ネパール人に見れば樹生の体格は「ご立派」です。彼等は私達がネパール語が判らないと思っていたのですが、聞いていた私達の気分は最高でした。(浩司)

◆1月は色々なことがありました。シータの出産、我が家で生まれた鶏も卵を産むようになり(多いときは1日に4個の卵が産まれ、買わずに済むようになりました)、樹生に歯が生え、今まずーっと待っていたことが次々と起こりとても良い1か月でした。また、週末には帰国する前に出来るだけ色々見ておこうと、今まで行ったことのないゴダワリやダクシンカリリーに行ってみたり、なかなか有意義に過ごしているのではないかとと思っています。そんなこんなであっという間に終わってしまった1月。時間が経つのは早いモノです。(美澄)